

違いがあるから学び合える ～心情グラフで視覚化することで深まる交流～

森光 利海

はじめに

本校で行っているアンケートによると、私が担任する学級において、他の教科の学習と比較したとき、道徳の授業が楽しいと感じている児童は少ない。主に研究している教科の学習でこの結果というのは悲しいものである。好きこそもの上手なれという言葉もある。どの授業においてもだが、特に道徳の授業に関して言えば、できることならば、少しでも楽しさを感じとらせることができる授業をしたいと考えている。

特別の教科道徳における子供とつくる学び

今年度の研究テーマは子供とつくる学びである。本時においては、「経験してきたことを共有すること」でその実現をみたいと考えた。その理由は2つある。

1つ目は、教材である。本教材は、北里柴三郎の幼少期のエピソードである。2年もの間、縁側を磨き続けるのは並大抵のことではないが、その部分の記述はほとんどない。努力は大切ということを児童は知っている。それでも、続けられない経験をしてきたし、これからも経験する。その上で努力を積み重ねるために必要なことは、どのようなことで続けられなくなったのかを振り返ることと他の人はどのようにして乗り切ったのかということを知ることだと考えた。行動変容を促すことがねらいではない。様々な対応方法を知ることで、これまでハードルが高いと思っていたことができるような気持ちを持たせることがねらいである。

2つ目は、特別の教科道徳の特性である。私は、

道徳の授業は、学習や運動が得意ではない児童も活躍できる教科だと思っている。それは、勉強は苦手でも優しく思いやりがある児童が友達について語るときや運動が苦手でも清掃や係活動を一生懸命に行っている児童がどのような考えで行動しているのかを知るときに私自身が強く感じていることでもある。そんな教科だからこそ、たくさん諦めてきた児童や思った通りに上手いかなかった児童の思いを汲みとれたらと考えたのである。

努力にいたるきっかけと継続したことによる達成感、そのことが人生に与える影響については教材の中から多くのことを学ぶことができる。努力する過程における葛藤を児童それぞれの経験を想起しながら交流することで、同じことで悩んでいる友達がいることに気付く。また自分にできそうな方法に出合うことで、努力に対して前向きな気持ちを持たせたいと考え、本授業に至る。

実践報告「光るえんがわ-北里柴三郎-」

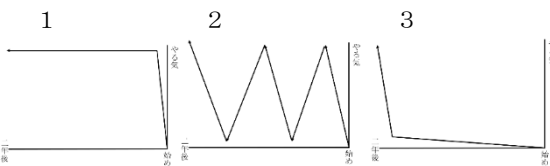
～やりぬくために必要なこと～

①まずは、全員が教材を捉えることができるように、同じ内容項目の別の教材と比較した。本時の教材は、「他の人から与えられた目標」についての努力という点が別の教材と違うという意見が出た。そして、人から与えられた目標に対する努力の方が難しいということを知り、人から与えられた目標を達成するためにどうしたらよいかという課題に向かって学習することを示した。

②北里柴三郎さんの気持ちが分かることを聞くと、多くの児童が（ふいたのに。）の部分で答えた。

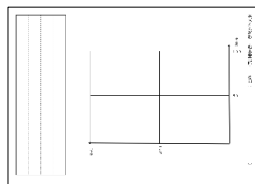
事前の予想通り、児童にとって共感できるものであったため、柴三郎さんになりきって、(ふいたのに。)のあとに続く言葉を交流させた。その中で、「もう遊んでいいでしょう」や「もういやですよ」など自分と柴三郎さんを重ねている意見が発表された。

③(ふいたのに。)の場面と最後の場面の柴三郎さんのふき掃除に対するやる気を数字に置き換えると0と100になるということをおさえた上で、2年間のやる気の浮き沈みをグラフ化したものを3つ提示した。



すると、児童から「どれも違う気がする」という意見が出たので、「では、自分の経験をもとに書かれていない2年間のグラフを作ってみよう」と投げかけ、ワークシートに書かせた。

④完成したものをもとに交流を促すと「ごほうびをもらえたらやる気上がるよね」や「やらないと怒られると思ったらやる気下がる」など経験をもとに多くの交流が行っていた。全体交流のときには、やる



気が上がるものとして「誰かにほめられる」「楽しさを見つける」、やる気が下がるものとして「誰かに怒られる」「他にやりたいことがある」「体調がすぐれない」に分類した。やる気が下がる3つのことのうち自分はどれが多いか、また、どのように対応するとよいかについて考え、交流した。「誰かに怒られる」が17人で最も多く、対応としては、「怒られる前にやってしまう」「後に楽しいことがあると思つてやる」などがあつた。やる気が上がることも下がること双方に自律と他律の意見があつたことから、どちらの方がより価値が高いかを問うと、自律の方が価値が高いという意見が多くあつた。

⑤振り返りの場面では、「ごほうびのために頑張る」という他律的な振り返りも散見された。一方「やる時間を決めて、習慣にする」や「目標を立てることが大切だと思った」など自律的な振り返りも多くみられた。

おわりに

経験を交流することは、それぞれ違いがあるからこそ新たな気づきを促すことに繋がると感じた。課題としては、①深めるための言葉がけをねらいに沿って行うこと②児童がこだわる部分を想定しておくこと③交流内容の焦点化があげられる。続かなかつた経験を楽しそうに話し、話を聞いて「わかる!」と共感している姿は、楽しそうに見えた。道徳の授業の楽しさを感じてもらえるようにこれからも研究を進めていきたい。

